
馬鹿なエアコン

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿なエアコン

【Nコード】

N51410

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

俺の家にある馬鹿なエアコンの話

（前書き）

こんなエアコン要りますか？

俺の家のエアコンは、頭が良かった。そう、ちょっと……、少し前迄は。今でも頭が良いといえば良いんだが……。

その日俺の家にやって来たエアコンは、今迄の物とは全く違う物だった。電源という物が無く、コンセントを差し込むと、部屋中の温度を勝手に計測し夏になれば冷房、冬になると暖房に勝手に切り替わる。春や秋といった気候の良い時期になると勝手にOFFモードに切り替わるという優れ物だ。

夏のある日、家に帰るとその有能なエアコンが馬鹿に変わっていた。家の中がサウナのように暑くなっているにも関わらず、暖房をガンガンに出していたのだった。ムカついた俺はエアコンの側面をバンバン叩いた。その時だった。『そんなに叩いたら痛いやる！』と何処からか声が聞こえたが、流れ出る汗のせいで余計にエアコンに腹が立ち、さっきより強くエアコンをバンバン叩いた。『痛い言うてるやる！暑いんかいな！こんなに寒いのに！』とまた声が聞こえた。

暫くしてからその声の主がエアコンだと気が付いたのだが、そうになると訳が分からないのを通り越えて「ダメエ！この真夏の真つ盛りに何暖房掛けてやる！」とエアコンに向かって怒鳴っていた。エアコンもエアコンで『こんなに寒いのに何言うてんの！』と怒り口調だ。暫くこの文明の力と大声で言い合いをしていたのだが「兎に角冷房つけるよ！」と言うと『寒さで死になや』と一言言うと、冷房に切り替わった。

それから暫くの間、この馬鹿エアコンと『暑い』だの『寒い』だのの言い合いが続けたが、結局俺が「暑い」と言えば冷房が入り、

「寒い」と言えば暖房が入るという事に納まった。

そして今、俺の家には馬鹿なエアコンがある得意技はまず話すという事。しかし、きわめつけは、電気を喰わないという事だ。もう長い間コンセントは抜いている。しかしコイツが言うには、電気はスタート時のみ必要で後は吸い取った埃をエネルギーに変換するという事らしい。だから俺の家は、電気代があまりかからない。

『でも……、命令しないと温度の分からない全自動って……。馬鹿じゃなきゃ何だてえんだ』

(後書き)

けど、省エネって、良くない？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5141o/>

馬鹿なエアコン

2010年10月25日23時12分発行